

## ●評価規準案

高等学校公民科 「高等学校 新倫理 新訂版」 (35・清水・倫理308)

月 編	学習内容 (目次)	評価の観点			
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用・技能	知識・理解
4月	第1章 人間とは何か				
	人間性の特質／人間—複雑で多面的な存在	【関意】 人間とは何かという根本的な課題に関心をもち、考察しようとする意欲をもっている。	【思判】 ホモ・サピエンスをはじめとした先人の定義から人間の特質について考察することができる。	【技表】 バビルス文書「死者の書」やゴッギャンの絵から人間の特質をとらえることができる。人間の特質について文章表現できる。	【知理】 ホモ・サピエンス、ベルクソン、ホモ・ファール、シンボル、カッシーラー、ホイジンガ、ホモ・ルーデンスといった概念や研究者の考え方を理解することができる。
	第2章 青年期の課題と自己形成				
	1 青年期の意義 2 自己の理解に向けて 3 豊かな自己実現のために	青年期を現在の自分のこととして、関心をもち、その課題に取り組もうとする意欲をもっている。自己自身の生き方や在り方について、自覚的に見つめて考えようとする関心や意欲をもっている。	発達心理学上の成果などから、青年期の課題を現在の自分のこととして考え、その解決に向けて模索している。自己自身の生き方や在り方について、パーソナリティ、アイデンティティ、適応といった一般理論から、個々人の現実の次元でそれがどうなっているか判断することができる。フランク『夜と霧』から、極限状態における人間の行動や心理を把握し、人間の特質について考察することができる。	青年期の課題に関連した芸術作品や様々な資料から、その課題を自分の言葉で表現することができる。複数の心理学者の提示する発達課題を比較・検討し、そこから個人の課題をまとめることができる。『夜と霧』やアウシュヴィッツの資料をまとめ、極限状態の分析・把握ができる。	青年心理学や発達心理学上の知見(青年期、マージナルマン、自我のめざめ、心理的離乳、第二反抗期、第二の誕生、モラトリアム等)について理解し正確な知識をもっている。パーソナリティ、適応、葛藤、欲求不満、防衛機制、自己実現などの概念を理解し、自己の特性について客観的に把握することができる。自己自身の生き方や在り方について、アイデンティティやモラトリアムといった言葉を適切に使うことができ、青年期の発達課題をまとめることができる。
5月	第1章 人生における哲学				
	1 神話から哲学へ 2 自然哲学の誕生とソフィスト 3 真の知への道 ソクラテス 4 理想主義的なあり方 プラトン 5 現実主義的なあり方 アリストテレス 6 幸福をめぐる問い ヘレニズムの思想	古代ギリシャにおける人間の生き方や在り方について、先哲が考え実践したことが時間や空間を越えた普遍的な意義をもつものとして、或いは自己自身の生き方や在り方に深く関わるものとして関心をもちて学ぼうとする意欲・態度をもっている。	基本的な歴史的知識を踏まえて認識し、自然哲学者、ソクラテスやプラトン、アリストテレスまたヘレニズム期の思想家の生涯と思想を通して、その意味について考え、主体的かつ客観的に判断することができる。	古代ギリシャにおけるプラトン、アリストテレス、ストア等の原典やその関連書物を読み、人間の生き方や在り方について、自分の考えを話し、文章に書くことができる。	古代ギリシャにおけるロゴス、テオリア、フィロソフィア、自然哲学、万物の尺度、無知の知、アレテア、徳、イデア、善のイデア、エロース、哲人政治、質量と形相、知性的徳、倫理的徳、中庸、正義、友愛、アタラクシア、アパテイア、コスモポリタニズム等の概念について理解し、そうした概念を使って考え、文章を書くことができる。
	第2章 人生における宗教①				
	第1節 キリスト教 愛の宗教 1 ユダヤ教 2 イエスの思想 3 世界宗教への展開  第2節 イスラーム 啓示と戒律の宗教	ユダヤ教、キリスト教、イスラームの一神教における人間の生き方や在り方について、それが人間の罪や苦悩からの救済をめざす宗教として、時間や空間を越えた普遍的な意義をもつものとして、或いは自己自身の生き方や在り方に深く関わるものとして、関心をもちて学ぼうとする意欲・態度をもっている。	基本的な歴史的知識を踏まえて認識し、イザヤ、エレミヤ、イエス、パウロ、アウグスティヌス、トマス・ムハンマド、アヴィセンナ、アヴェロエスなどの生涯と思想を通して、その意味について考え判断することができる。	『旧約聖書』『新約聖書』『クルアーン』など原典を読んだり、キリスト教やイスラームがテーマになったり、またそれに触れた小説、映画、絵画、彫刻等の芸術に接し、認識を深めそれに基づいて自分の考えを話し、文章に書くことができる。	一神教、モーセ、預言者、律法、メシア、契約、罪、救い、神、福音、神の国、原罪、赦し、アガペー、隣人愛、教会、原始キリスト教、パウロ、回心、贖罪、恩寵、教父、カトリック、スコラ、アッラー、シャリーア、六信五行等の概念について理解し、そうした概念を使って考え、文章を書くことができる。
	第2章 人生における宗教②				
	第3節 仏教 智慧と慈悲の宗教 1 パラモン教 2 仏陀の思想 3 仏教のその後の展開	仏教における人間の生き方や在り方について、仏陀や竜樹などその宗教指導者が考え実践したことについて、それが人間の苦や不安からの解放をめざす教えとして、時間や空間を越えた普遍的な意義をもつと認識	基本的な歴史的知識を踏まえて認識し、ウパニシャッドやジャイナ教の教え、また仏陀や竜樹、無著、世親の生涯と思想を通して、その意味について考え正しい判断をもつことができる。	仏典や種々の解説書を読んだり、古代インドの仏像をみたりまた仏教をテーマとした小説、映画、絵画、彫刻等の芸術に接し、認識を深めそれに基づいて自分の考えを話し、文章に書くことができる。	ウパニシャッド、カルマ(業)、輪廻、解脱、ブラフマン、アートマン、梵我一如、苦、中道、四苦、四諦、八正道、縁起、四法印、慈悲、上座部、大乘仏教、菩薩、空、唯識、一切衆生悉有仏性の概念につ

月	編	学習内容（目次）	評価の観点			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
6月			し、自己自身の生き方や在り方に深く関わるものとして関心をもって学ぼうとする意欲・態度をもっている。			いて理解し、そつした概念を使って考え、文章を書くことができる。

月 編	学習内容（目次）	評価の観点			
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
7月	第3章 人生の知恵 1 孔子と儒家の思想 2 儒教の展開 3 道家の思想	中国における人間の生き方や在り方について、孔子や孟子・荀子、また老子や荘子などが考え実践したことについて、それが現実の人間関係や政治的社会の中でよりよく生きることを目指す教えであり、時間や空間を越えた普遍的な意義をもつと認識し、自己自身の生き方や在り方に深く関わるものとして関心をもって学ぼうとする。	基本的な歴史的知識を踏まえて認識し、儒家や道家の教え、またそれぞれに属する代表的な思想家の生涯と思想を通して、その意味について考え正しい判断をすることができる。	『論語』、また孟子、老子や荘子などの原典やその解説書を読んだり、古代中国の詩や小説に接し、認識を深めそれに基づいて自分の考えを話し、文章に書くことができる。	天、天命、諸子百家、仁（孝悌、克己、忠恕）、礼、君子、中庸、徳治主義、性善説、王道、霸道、性悪説、理気二元論、性即理、致良知、心即理、道、偽、無、無為自然、柔弱謙下、小国寡民、万物斉同、真人等の概念について理解し、そうした概念を使って考え、文章を書くことができる。
	第4章 人生における芸術 芸術と芸術家 共同作品としての芸術 芸術と社会 日常生活と芸術	芸術作品に対して積極的に鑑賞しようとする姿勢を示し、また芸術がもつ意義について理解し、解釈しようとする。	芸術作品や芸術家の人生を通して、人生における芸術の意義、自分にとっての美、自己表現の意義を考察することができる。	ピカソの作品や活動の資料から、芸術観や芸術と政治・社会との関係を読み取り、文章に表現することができる。	ピカソ、柳宗悦、ホイジンガの考え方・とらえ方を理解し、「ゴシック、シャルトル大聖堂、民芸」の美を説明することができ、「用の美、芸道、遊び」の意義を説明できる。
8月	第3編 現代社会と倫理 第1章 現代の倫理的課題 近代とは何か／ 合理化と近代科学／ 合理的な考え方と社会の進歩／ 近代社会がもたらしたもの／ 近代社会の限界	現代の倫理的課題について、政治や経済、社会、文化的状況を踏まえて関心を持ち、考えようとしている。	科学・技術、合理化や進化、産業や市場経済、大衆社会化、都市化等々の状況を踏まえて、現代の倫理的課題について考察し、客観的な判断をもつことができる。	現代の倫理的課題について、多様な観点から、種々の情報資料を収集調査し、問題点や課題の所在を明確化し、まとめることができる。	現代の倫理的課題について、近代化・合理化・進化や進歩とその問題点について知識を持ち、現代の諸事象を解釈することができる。
	第2章 現代に生きる人間の倫理① 第1節 人間の尊厳 1 自己肯定の精神 2 宗教観の転換 3 人間の偉大と限界	ルネサンス、宗教改革、モラリストの思想について、それらが現代に生きる私たちの芸術や、キリスト教信仰、近代的人間観に基本的な枠組みを提供していることを踏まえ、興味や関心を持ち、探求する意欲や態度をもっている。	ルネサンス、宗教改革、モラリストの思想について、そこにおける芸術や、キリスト教の近代的なありかた、近代的人間観が現在にも有効であることを理解し、それを踏まえて現代的な課題について客観的で公正な判断をくだすことができる。	ダ・ヴィンチやミケランジェロの作品、ルターやカルヴァンの著作、モンテーニュやパスカルの著作にふれ、さらに同時代資料或いは後世の研究を参考にし、その特徴を文章にまとめることができる。	ルネサンス、宗教改革、モラリストの思想について、基本的な知識理解を持ち、それを踏まえて自己自身の考え方を表現し文章にまとめることができる。
9月	第2章 現代に生きる人間の倫理② 第2節 自然や科学技術と人間とのかわり 1 自然への目と科学的なものの見方 2 事実と経験の尊重 3 理性の光	近代科学の方法の確立とその発展及び科学の原理的考察に関して、ガリレイやニュートンによる天文学や物理学の成立、また科学の方法論的考察としてデカルトやベーコンの思想に関心を持ち、探求する意欲や態度をもっている。	天動説から地動説へ、ガリレイの思想と教会との関係やまたデカルト、ベーコンの思想を通して科学方法論や人間観・世界観の特徴を客観的に考えその意味について適切に判断することができる。	天文学の成立、近代科学の方法の確立、デカルトやベーコンの著作や同時代の諸資料、また後世の著作や研究書（トマス・クーンなどの）、各種情報メディアを介した資料を参考にし、その成果や特徴および問題点などをまとめ、文章に書くことができる。	天動説、地動説、宗教裁判、科学革命、パラダイム、イドラ、経験論、方法的懐疑、cogito、合理論、物心二元論等々について正確な知識と理解を持ち、文章を書くことができる。帰納法、演繹法の説明ができる。
	第2章 現代に生きる人間の倫理③ 第3節 民主社会における人間のあり方 1 民主社会の原理 2 人権思想の展開	近代社会における個人と国家や社会の関係について、歴史的な先進世界であったヨーロッパがどのように考え実践してきたか関心を持ち探求する意欲や態度をもっている。	近代社会における個人と国家や社会の関係について、社会契約論や人権思想がどのように考えたか歴史的な状況を踏まえて考え、その意味について客観的に公正に判断することができる。	ホッブズ、ロック、ルソーなどの著作を読み、さらに同時代の諸資料、後世の研究書および歴史書など対比しながら、その成果や特徴および問題点などをまとめ、文章に書くことができる。	ホッブズ、ロック、ルソーなどの諸概念（自然状態、契約、自然法、抵抗権、一般意志）や思想・人権の歴史について正しく認識し、文章にまとめることができる。

月 編	学習内容（目次）	評価の観点			
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
10月	第2章 現代に生きる人間の倫理④				
	第4節 自己実現と幸福 1 人格の尊重と自由 2 自己実現と自由 3 幸福と功利 4 創造的知性と幸福	ヨーロッパの19～20世紀の哲学、アメリカ20世紀の哲学について、私たちの生活する世界と時代に直接的な繋がりがあろう思想として関心をもち、探求する意欲と態度をもっている。	カントの理性の哲学、ヘーゲルの歴史哲学、功利主義、アメリカのプラグマティズムいずれもその時代と社会に必然的に現れたものであるが、現在の私たちにも深く関わる思考であることを認識し、その現代的な意味について適切に判断することができる。	カント、ヘーゲル、ベンサムやミル、デューイなどの著作や同時代資料、また歴史資料や研究書に拠りながら考え、その結果について文章に書くことができる。「自由・真理・善」などについて、それぞれの立場から解釈することができる。	カントの自律の哲学、ヘーゲルの歴史と自由、ベンサムやミルの功利主義、プラグマティズムのジェームズ、デューイの思想とその基本的な諸概念について正しく理解し、それについて文章を書くことができる。
11月	第2章 現代に生きる人間の倫理⑤				
	第5節 個人と社会とのかわり 1 人間性の回復を求めて 社会主義 2 人間存在の地平 実存主義 3 他者の尊重 4 社会参加と他者への奉仕	マルクスの社会主義や実存主義について、私たちの生きる世界と時代に直接関わっている思想として関心をもち、探求する意欲と態度をもっている。	マルクスの社会主義、危機と不安の時代の実存主義はその時代と社会に必然的に現れたものであるが、現在の私たちにも深く関わる思考であることを認識し、その現代的な意味について適切に判断することができる。ロールズの2つのルールについては、ルールの原則から具体的な事例を考え、記述することができる。	マルクスや実存主義者たちの著作や同時代資料、また歴史資料に拠りながら考え、その結果について文章に書くことができる。ボランティアや社会的連帯に関する資料を調べ、その意義についてまとめることができる。ロールズやアーレントやハーバーマスの考え方については、それぞれの原則・ルールを満たす簡単なモデル(ケース)を生徒につくらせるという方法もある。	社会主義思想のマルクスや実存主義者キルケゴール、ニーチェ、ヤスパーズ、さらにハイデガー、サルトル、ロールズの思想とその諸概念について正しく理解し、レヴィナスの思想や人類愛やボランティアへの理解をもって、それについて文章を書くことができる。
12月	第2章 現代に生きる人間の倫理⑥				
	第6節 現代における理性の問題 1 生命への畏敬 2 理性主義の見なおし 3 言語論的転回 4 科学観の転換	20世紀後半の思想が先の大戦や近年の民族紛争への反省に立って、一般に理性主義への反省、生命や無意識への注目、公正や正義についての新しい考え方において成立していることを踏まえ、そうした観点から現代の課題について関心をもち、探求する意欲と態度をもっている。	ガンディーやシュヴァイツァー、フロイトとユング、フーコー・レヴィ・ストロース、ホルクハイマー・アドルノ、ウィトゲンシュタイン、クーン等の思想を概観し、そうした思想に拠って現代の倫理的諸課題について考え適切な判断を行うことができる。	ガンディーやシュヴァイツァー、フロイトとユング、フーコー・レヴィ・ストロース、ホルクハイマー・アドルノ、ウィトゲンシュタイン、クーン等の著作や同時代資料、また研究書や新聞雑誌等のメディアの資料などの情報を活用して、考察し、その結果を文章にまとめることができる。	生命への畏敬、精神分析(深層心理)、フランクフルト学派、構造主義、分析哲学などの諸概念を理解し、ガンディーやシュヴァイツァー、フロイトとユング、フーコー・レヴィ・ストロース、ホルクハイマー・アドルノ、ウィトゲンシュタイン、クーン等の思想の特徴を文章にまとめることができる。
1月	第1章 日本の風土と外来思想の受容①				
	第1節 日本の風土と伝統 1 日本の風土と人々の生活 2 古代の人々の考え方	日本の風土や日本人の自然観・宗教観・倫理観について、それが長い歴史の中で培われた伝統的なものであり、現在の自分の生き方や在り方にも関わるものとして関心をもち、考えようとする意欲態度をもっている。	日本の風土や日本人の自然観・宗教観・倫理観の特徴を、種々の文献・資料に基づいて、歴史的な諸事実や客観的な証拠・論拠に拠って判断することができる。	古典から現代の日常生活にいたるまで様々な文献や資料を活用しそれに基づいて自分の考えをもち、話したり文章に書いたりすることができる。	和歌や随筆などの代表的な古典作品や和辻の風土などに即して日本の風土や日本人の自然観・宗教観・倫理観の特徴を理解し、日本における神の観念や善悪・道徳の観念、祖先神、穢れ、清明心等の概念を把握し、それを用いて文章を書くことができる。
2月	第1章 日本の風土と外来思想の受容②				
	第2節 仏教の伝来と隆盛 1 仏教の移入…古代仏教の思想 2 仏教の土着化…鎌倉仏教の思想	わが国における仏教の受容と展開及びわが国独自の仏教の成立と発展における、仏教信仰のあり方について関心をもち、学ぼうとする態度を身に付けている。	わが国における仏教信仰の内的な発展について、歴史的な事実をもとにして考え、正しい判断力を働かせることができる。	教科書や仏教祖師たちの原典、その解説書、小説や映画などの芸術作品、種々の情報資料等を活用し、認識を深め、その結果をまとめてレポートを書いたり、発表したりできる。	わが国における仏教について、聖徳太子、十七条憲法、最澄、一切衆生悉有仏性、空海、密教、即身成佛、末法、阿彌陀仏、法然、他力、専修念仏、親鸞、悪人正機、道元、只管打坐、日蓮、法華経等々の概念について理解し、そうした概念を用いて文章を書くことができる。
3月	第1章 日本の風土と外来思想の受容③				
	第3節 儒教の日本化 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学	わが国における儒学の受容とその日本化について、日本人のものの考え方の一つの伝統を形成した日本儒学の孝、誠、礼等に関心をもち、学ぼうとする意欲と態度をもっている。	町人や武士の生き方やものの考え方の核となった朱子学・陽明学・古学・古文辞学等の発展を踏まえて考え、日本儒学について正しい判断を働かせることができる。	羅山、藤樹、素行、仁斎、徂徠の原典やそれにかかわる種々の資料等を活用して認識を深め、その結果をまとめて、また文章に書くことができる。	林羅山の上下定分の理、中江藤樹の孝、素行の古学と士道、仁斎の古義学と誠、徂徠の古文辞学と先王の道について理解し、その諸概念を適切に使用して文章を書くことができる。

月	編	学習内容（目次）	評価の観点			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解

月 編	学習内容（目次）	評価の観点			
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
1月	第1章 日本の風土と外来思想の受容④				
	第4節 日本文化と国学 1 古典美の再発見 2 国学	儒学や仏教などの外来思想に対して、国学がわが国の固有の考え方や生き方に基づいて主張されたことを踏まえ、あわせて日本の伝統文化や美意識に興味や関心をもち、探求する意欲や態度をもっている。	国学の契沖、真淵、宣長らの思想について考察し、その意義について正しく判断する力をもっている。日本の伝統文化・美意識を西洋的なものと対比することができる。	契沖、真淵、宣長の著作をはじめその解説書を読み、またその他(茶華道・能等)の資料や画像を参考にして考え、文章に書くことができる。	日本の美意識の典型である幽玄・わび・さびなどの理念を理解している。国学の契沖、真淵、宣長の思想やその基本的概念(ますらをぶり・もののあわれ・真心・たおもめぶり)を正しく理解している。
	第1章 日本の風土と外来思想の受容⑤				
2月	第5節 近世庶民の思想 1 都市庶民の思想 2 農民の思想	町人や農民の思想について、それらがわが国の思想史上、社会経済上に果たした役割について興味や関心をもち、探求する意欲や態度をもっている。	町人や農民の思想について、石田梅岩や井原西鶴、安藤昌益や二宮尊徳の思想について考察し、その意義について正しく判断する力をもっている。	石田梅岩、安藤昌益、二宮尊徳の著作をはじめその解説書を読み、また井原西鶴や近松門左衛門の作品その他諸資料を参考にして考え、町人や農民のあり方について文章を書くことができる。	石田梅岩の心学・正直と俵約・営利活動の肯定、安藤昌益の万人直耕と自然世、二宮尊徳の分度と推譲・報徳などの基本的概念を正しく理解している。
	第1章 日本の風土と外来思想の受容⑥				
	第6節 西洋近代思想の受容 1 西洋文明との接触 2 啓蒙思想と民権論 3 キリスト教の受容 4 国家主義の高まりと社会主義 5 近代的自我の成立 6 近代日本哲学の成立 7 近代日本の思想傾向への反省	近代日本の思想について、幕末から明治維新、明治期、大正から昭和、太平洋戦争にいたる昭和期のそれぞれの特徴とその代表的な思想について興味や関心をもち、探求する意欲や態度をもっている。	幕末から明治大正昭和の時代認識を踏まえて、各時代の代表的な思想や思想家について考察し、その歴史的意味について正しく判断することができる。	幕末の洋学、華山、長英、象山、松陰、諭吉、兆民、鑑三、秋水、漱石、西田、和辻等の著作や同時代資料、また後世の解説書や研究書を読み、またその他諸資料を参考にして考え、文章に書くことができる。歴史的な資料の読解と整理、思想の特徴を示す著作や作品の鑑賞と整理をととして、その特質を簡単な文章にまとめることができる。	幕末の洋学、華山・長英・象山・松陰らの時代の先駆者の思想と行動、福沢諭吉と啓蒙思想、中江兆民の自由民権思想、内村鑑三に代表されるキリスト教信仰、幸徳秋水に代表される社会主義思想、漱石に代表される明治の文学者の近代的自我との格闘、西田幾多郎や和辻哲郎の独自の思想等、その基本的概念を正しく理解し、文章を書くことができる。
第5編 現代の諸課題と倫理	第2章 現代の日本と日本人としての自覚				
	新たな価値観の模索／ 現代日本と私たちの課題／ 主体性の確立	現代の日本の状況や日本人のあり方に関心をもち、積極的に考察しようとする。	坂口や丸山、小林の説でとりあげられている主張をもとに、現実の社会の動きをとらえ直すことができる。	文字資料としての坂口・丸山・小林の所説を読み解き、現実の社会事象と結びつけることができる。また、具体例を検索し、まとめることができる。	現代の日本と日本人について、坂口や丸山、小林らの思想をもとに、種々の伝統や現在の姿を踏まえて正しい知識をもち、客観的で公正な理解をもっている
	第1章 生命と倫理 第2章 環境と倫理				
3月	第1章 生命と倫理 第2章 環境と倫理	生命科学あるいは環境問題を研究テーマとして、調査活動や研究発表を行うことに関心をもち探究する意欲と態度をもっている。	生命科学あるいは環境問題を考察したうえで、自己自身の生き方や考え方や国家社会の在り方について考え、広い視野に立って適切な判断を行うことができる。	生命科学あるいは環境問題に関して多様な観点から、種々の情報・資料を収集活用し、それに基づいて考え自分の考え方をまとめ、それに基づいてプレゼンテーションを行ったり文章に書くことができる。	臓器移植、生殖医療、クローン技術、生態系、環境倫理学等について基本的な知識をもち、それに基づいて自己の考え方をもち発表したり文章を書いたり、また行動するための実践的な認識をもっている。
	第3章 現代の家族とその課題 第4章 地域社会の変容と共生 第5章 情報社会とその課題				
	第3章 現代の家族とその課題 第4章 地域社会の変容と共生 第5章 情報社会とその課題	現代の諸課題と倫理について、家族の諸問題あるいは情報社会を研究テーマとして、調査活動や研究発表を行うことに関心をもち、探究する意欲と態度をもっている。	家族の諸問題あるいは情報社会の問題を考察したうえで、自己自身の生き方や考え方や国家社会の在り方について考え、広い視野に立って適切な判断を行うことができる。	少子化問題、高齢社会の問題、都市化や過疎の問題、また情報社会に由来する多様な問題について諸資料や種々の情報を収集しそれに基づいて自ら考え、判断し、自己の行動の指針を展望することができる。	家族の諸問題あるいは情報社会を研究テーマとして、少子化の傾向、少子高齢社会の現実とその将来について、また情報社会の光と影について理解し、適切な判断や行動のための実践的な認識をもっている。
第6章 グローバル化の時代と倫理 第7章 人類の福祉と国際平和	第6章 グローバル化の時代と倫理 第7章 人類の福祉と国際平和				
	第6章 グローバル化の時代と倫理 第7章 人類の福祉と国際平和	国際社会における諸課題と倫理について、国際理解あるいは南北問題を研究テーマとして、調査活動や研究発表を行うことに関心をもち探究する意欲と態度をもっている。	国際社会の中で生きることや異文化理解についてまた国際協力や人類の福祉について考え、広い視野に立って適切な判断を行うことができる。	宗教や民族などの相違やそれが引き金となって国際社会において現在生起している諸問題、貧困の解消や人権の尊重など多様な問題について諸資料や種々の情報を収集しそれに基づいて自ら考え、表明することができる。	異文化理解、国際理解、子どもの人権、ODA、NGO等についての現実とその将来について理解し、適切な判断や行動のための実践的な知識をもっている。

月	編	学習内容（目次）	評価の観点			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 <span>の</span> 技能	知識・理解
					きる。	